

地域支援だより

令和2年1月10日

兵庫県立西はりま特別支援学校

支援部 No.2



新年、明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

本年も本校の教育活動推進に、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



本校では夏季休業中に公開講座を開催したり、校内の教師や地域のコーディネーターの先生を対象にした研修会を行ったりしています。本号では、本校で行われた講座や研修会について紹介します。

夏季公開講座



◎7月25日(木)『自立活動について』

(県立姫路しらさぎ特別支援学校教諭 竹中正彦先生)

“自立活動の授業をどのように組み立てればよいのか？”“そもそも自立って??”という自立活動の基本の部分からを姫路しらさぎ特別支援学校での実践例をあげながら、わかりやすく具体的にお話していただきました。『自立活動を使った指導計画作成シート』を使って、目的をどのように持っていった授業を組み立てるのかという方法も教えていただきました。



参加された地域の先生方の声

- 具体的な事例が多く、写真を見ながらなのでイメージがわきやすかったです。2学期からできそうな授業があり、勉強になりました。
- これからの通級指導にいかせそうです。先生の「自分の個性を生かす、スパイスを効かす、自分も楽しむ！」の言葉に、これからの自立活動への想像力が広がりました。
- 『自立活動を使った指導計画作成シート』は早速使ってみたいと思いました。



◎7月29日(月)『教材を作る時間にしましょう!』(本校教諭)

いつも日々の教材研究でお忙しく、新しく作ってみたい教材・教具があってもそんな時間がない!!という先生方に、本校に来ていただき、一緒にペープサートやビジョントレーニングに使える教材などを作成しました。地域の先生方には、本校の自立活動室の見学もしていただきました。



参加された地域の先生方の声



- たくさんの教材を見せていただきました。教材は財産ですね。「作りたいものを作る」って素敵でした。
- ちょうど“三匹のこぶた”を題材に授業をしていたので、そのペープサートを作ることができ、うれしかったです。

◎7月31日(水)

『発達障害のある子の思春期 - やがて大人になる君に、いま私たちができること - 』

(大阪医科大学小児科 金 泰子先生)

発達障害のさまざまな子どもたちと金先生との関わりの中から、そして小児科としての病理的な背景も基にした「発達障害の子どもたちってこんな子どもたちなんだよ、こんな悩みを抱えていたりするんだよ」ということをわかりやすく、心温まるお話で教えていただきました。「子どもたちの発達に応じた支援をどれだけ私たちはできているかな？」と振り返る機会になり、講演中涙した参加者も数多くいました。



参加された地域の先生方の声



- 日々、悪戦苦闘ですが、「踊り場」的な場所やゆとりが大切だと思いました。2学期からの日々を笑顔で!!と思いました。
- 「踊り場→次の人へバトンタッチをする」「一人で抱え込まない」を心にとめて、今後も子どもたちを支援したいです。
- 「子どもたちの成長に学期も学年もない。自分と過ごす一年間で、愛され豊かな日々を過ごすことが大事」という言葉を胸に、これからもがんばります。
- 「自分の特性を知り、自分に合う環境を選ぶことができれば、特性が強みになる」というお話が心に残りました。



◎8月27日(火)『アセスメントからつながる遊び』(本校教諭)

前半では、日々の生活の中で、子どもたちは何につまずき、つらい思いをしているのかを事例を通して探っていきました。後半では、楽しみながらできる色々な遊びやレクリエーション、パラSPORTSのゴールボールなどを行いました。



参加された地域の先生方の声



- 知らなかったスポーツが体験できてよかったです。やはり、知っているだけと体験するのは違って、「体感したり、体験したりすることを大切にしたい」と改めて思いました。
- 機会があれば学校でも試してみたいです。

◎8月28日(水)『発達段階における視点(新版K式発達検査)』

(県立赤穂特別支援学校教諭 大久保 圭子先生)

実例も交えながら、検査項目の意味やそれぞれの発達段階の具体的な様相をわかりやすく教えてくださいました。

特に「ことばで気持ちをコントロールする」ことの大切さなど、改めて実践で活かせる示唆が多くありました。



参加された地域の先生方の声



- とてもわかりやすかったです。子どもが「今、どの発達段階にいる」「ここが遅れているからつまづいている」ということを理解した上で、学習を進めていきたいと思いました。
- 話を聞きながら、受け持っている子どもがどの段階で、どこを見ればよいのかが分かりました。今後の指導にとっても役立つと感じました。
- 発達について、子どもの生誕から順を追ってわかりやすくお話していただきました。それを改めて聞くことで、子どもたちの成長に合わせて接する大切さを再確認できました。



兵庫県特別支援学校知的障害教育研究協議会 コーディネーター部会

◎2019年11月22日に本校で、兵庫県特別支援学校知的障害教育研究協議会のコーディネーター部会が開催されました。兵庫県の特別支援学校のコーディネーターの先生方が集まり、実践報告や研究協議、桃山学院教育大学の松久眞実先生の研修会などを行いました。

松久先生の研修会では「ユニバーサルデザイン教育」という題で、ハード面、ソフト面どちらものユニバーサル化についてお話いただきました。「所属意識」や「自己肯定感」の大切さ、「好意に満ちたクラスづくり」などについて教えていただきました。

コーディネーター部会のその裏で… 本校生徒の活躍も！！

- 学校見学では、高等部の生徒が案内係をしました。温かい雰囲気でお客様を出迎え、丁寧に受け答えができました。
- 中学部生徒たちが校内実習で封筒を作成しました。丈夫にできており、分厚い冊子も安心して収めることができる程の仕上がりでした。
- 昼食時には、中学部の生徒が湯茶係をしました。とびきりの笑顔で接待ができました。
- 作業班で販売を行った生徒もいました。積極的に呼び込みができ、主体的にお客様と関わる事ができていました。あっという間に完売してしまいました。



参加された先生方の声



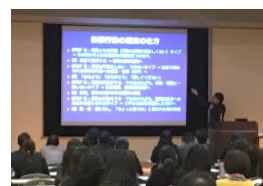
- 西はりまの広域地域への支援などがわかり、参考にしようと思いました。
- 他校の状況がよくわかり、活かしていきたい点など得ることが大きかったです。
- 通常学級での支援を提案する際の視点にもなり、非常に勉強になりました。
- 全体指導での特別支援教育のコツという視点が大事だと改めて思いました。
- 販売学習で売られていたケーキの質がとっても良かったです。

高校通級西播磨地区連携研究会



◎2019年11月28日に本校で、西播磨地区の高等学校における通級による指導実践研究校(県立伊和高等学校、県立太子高等学校)および、サポート校である特別支援学校(県立西はりま特別支援学校、県立播磨特別支援学校)と、近隣の小学校・中学校の通級指導担当者等との合同研究会が行われました。

本研究会では、相生市立双葉小学校の名村嘉将先生や県立伊和高等学校の天野利佳先生の実践発表、兵庫教育大学大学院の井澤信三先生による「通級による指導の充実に向けて」についての講演会が行われました。



参加された地域の先生方の声



- 「R-PDCA対話法」による指導の実例を紹介していただき、「対話」の重要性を実感しました。「自分で決めた目標は、100%実行する」という言葉に心が動きました。事例を通して、「目標設定+評価→将来を見据える→小中高のスムーズな移行→本人の『生きる』をサポート」分かりやすかったです。
- 小学校段階でも、目標設定を子どもとのやりとりの中で行われていること、是非高等学校でも大事にしていきたいと思いました。
- 大切なことは本人の自らの意識を高めながら、教員間及び保護者との連携を大切に、指導力を高めることが不可欠であると思いました。
- リサーチし、担任と対話していくことの大切さを改めて感じました。一緒に目標を共有し、それについての支援を一緒に考えていく…チームで学級適応力を上げていくよう取り組んでいきたいです。また、目標が本人主体のものになるよう、本人の思いや願いを合わせたものになるよう引き出しながら、進められる力を付けていきたいと思いました。



*本校では、他校とも協力し合いながら、特別支援教育を推進していけるよう取り組んでおります。

